



編集・発行 山見妙勢能
日蓮宗 能勢妙見山 広報部
〒563-0132
大阪府豊能郡野間中
電話 072-739-0329
FAX 072-739-2883

継続は力なり

日 慧

駅の売店でペットボトルの水を買ったときのこと。

「ビニール袋に入れましようか」と店員さんに聞かれたのでカバンに入れるために袋をお願いした。おつりをもらい、小銭入れにしましながら隣の本屋を見ると、ちようど買いたい本が目に入った。

列車の発車時刻が迫っているが、何とか目当ての本も買って急いでホームへ行くとちようど列車が入ってきたところである。

このように、あまり誉められたものではないが、自分で自分を忙しくさせているようなことを、ちよく

ちよくしている。今回もその習癖とでもいうものによる行動であった。

やれやれと落ち着いたところで、早速買ってきた本を手にとり、さて水をいっぱいと思っただが、カバンの中にもペットボトルが見当たらない。よく考えてみると、本が気になって水をもたずに本屋に行き、せかせかと急いでホームへと向かったため、水を受け取らなかつたようだ。お店の人が気付いたときには、私は煙のように消え去った後だったということだろう。

お金を払った上で、買ったものを忘れて店を出るなど、二重に損したわけで、少しでも慰めてもらえるかと家で話したところ、

「年をとると、二つのことを一度にこなすのは難しくなってくるですよ」

甚だ面白くない答えが返ってきた。聖徳太子が十人の話を聞いたという故事には及ばないが、二つや三つの仕事はいつも一度にこなしているつもりだが……。

そう言えば、仏様は一体何人の願いを聞いて下さっていることか。それに比べれば、凡夫の我々ができる

ことには限りがある。どれだけのことができるか数を誇っても意味はない。

ただ私たちにもできることがある。一つの事でも続けることである。一事を続けるのなら歳をとつても忘れずにできるだろう。日蓮聖人は、信心の極意は流れゆく水のように絶えることなく続けることが肝要と説かれていますが、何事も継続こそが力となるであろう。

《法華経に学ぶ現代》

〜純智庵〜

諸の善男子

各諦かに

思惟せよ

此は為れ

難事なり

宜しく

大願を

発すべし

『見宝塔品第十二』

国難来たるというべきか

内にあるは権力闘争

そんな乱れを狙ってか

外から寄せ来る諸外国

うかうかしてたら知らぬ間に

日本という国亡くなるぞ

今こそみんなで考えよう

世界の平和と我が祖国

【10月の主な行事】

★写経会 8日(日)11時

★月例祈願法要 15日(日)13時

★星嶺演奏会 15日(日)11時

※十月の星嶺茶論は月例祈願法要に代えさせて頂きます。

★鷗様月例祭 22日(日)15時

☆お風入れ 宝物公開展示 22日(日)〜24日(火)

◎年に一度の宝物公開展示

【11月の行事予定】

☆七五三詣祈禱 1日〜30日

◎お子様の成長を祈って、七五三詣祈禱を11月中

執り行っております。

※祈禱札と記念品を授与

御祈禱料 三五〇〇円

☆宗祖日蓮聖人御会式法要 11日(土)〜12日(日)

※お会式様とおはぎの供養

★写経会 12日(日)11時

★月例祈願法要 15日(水)13時

★星嶺茶論 19日(日)13時

お題目の太鼓練習です。

★鷗様月例祭 22日(水)15時

※火伏守札を授与

★コンサート 660 in 妙見山 26日(日)時間未定

《交通のご案内》

◆ケーブル&リフト毎日運行中

酒は飲んでも飲まれるな

服部憲厚

「卒業十周年記念旅行をやるう！」

久しぶりに大学の同期数名で集まった居酒屋談義のこと。K君のこの提案はほろ酔いの私達の賛同を得て即時に可決された。いい調子で酒がすすむ。幹事役から場所や日程までを話し合い大いに盛り上がった。その帰りの電車で、ふと我に返ってこの記念旅行について思いを巡らした。

卒業から十周年の同窓会ならよく聞くが、記念の旅行までとは「仲が良いにも程がある：」酔いの回った頭でさらに思い巡らす。

我々同期二十名は、僧侶育成の寮生活を励まし合いながら共に過ごしてきた同志。夢のキャンパスライフは朝夕仏前の勤行に消え、青春を法衣の袖に押し込めた四年間。厳しい修行を思

い出し、酔いが一気に醒めたが、おかげで記念旅行の趣旨も思い出すことができた。三十過ぎたオッチャン達が一堂に会し羽目を外して青春に戻る……。

否、それが旅行の目的であるなど僧侶として口が裂けても言えない。これは二日酔いの胸にそっとしまっておくことにしよう。

さて昨今、若者のお酒離れが進んでいるそうだ。理由は様々だが、その根底には「一人との繋がりが面倒」という気持ちがあるように思う。もちろん飲みすぎは禁物であるし、飲酒の推奨でもないが、面倒を理由に人間関係までも希薄になっていないだろうか。

あの青春をかけた面倒な日々を共に乗り越えたからこそ彼らは私にとっての一生の宝となった。

人間関係が希薄になっていく現代、そんな関係性は面倒と思われるが、顔を突

現代人の悩みはつきない。今日のランチに職場の人間関係、果ては不安定な世界情勢等々。悩んでもどうしようもないことも多いのに、いろんな情報に踊らされ悶々と悩んでしまふ。

そんな悩みにお釈迦様は自分ができる部分に集中するのが大切だ

☆☆☆☆星のたより☆☆☆☆

とおっしゃっている。苦の原因は、自分の思い通りにいかないことだ。悩みの原因を自分のできる事とどうにもならない事に分け、前者に集中する。

限りある人生、自分の目の前にあることに集中し最善を尽くすのが苦を離れ苦を乗り越える一番の近道だ。U.K

俳壇

（みのり）

爽やかや歴史をきざむ法の山

石佛を囲みてなびく芒原

東に里雲生れて台風来

田を隔つ母の故郷二日月

高階の窓ほつほつと秋灯

暦のあれこれ

暦と人々(二)

鎌倉時代初期に成立した「宇治拾遺物語」という書物に、当時の暦にまつわる話がのっています。

ある身分の低い女官が下級役人に暦の書写を依頼したところ、その役人がいたずらで、あらぬ事を書き連ねてしまふその女官が大変な目にあつたというものです。それは選日の吉凶の決まり事の欄に、その日の禁止事項として出鱈目がかかれていたというもので、特にひどいのは「はこすべからず」と書かれていた事です。「はこ」とは便器の事、「はこする」とは大のほうをする事になるので、「はこすべからず」とは排便してはいけない事になります。それを信じた女官は災難にあつた、と言う話です。実際にあつた事かは疑問ですが、暦に縛られていた当時の人々の様子がかいま見えるお話です。